

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「知・徳・体」のバランスがとれた生徒を育み「絆」を大切にする学校
1 わかる喜びや達成感を味わわせ、社会を生き抜くための「豊かな学び」(「知」)を定着させ、進路実現を図る。
2 やさしさを基盤に厳しく粘り強い生徒指導を展開し、規範意識を高めるとともに基本的生活習慣の確立に努め、豊かな人間性(「徳」)を醸成する。
3 健康で安全な社会生活が営めるよう、健全な心身(「体」)をはぐくむ。
4 生徒と生徒、生徒と教職員、教職員と保護者、そして地域や中学校との連携を強化(「絆」)する。

2 中期的目標

社会の一員として自信を持って生きていける自立した人づくり
1 社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進
(1)新学習指導要領を踏まえ、わかる授業を展開し、社会で生き抜くことのできる学力を身につけさせる。 ア 教材や指導法の工夫を図り、基礎的・基本的な学力を定着させるとともに、充実した言語活動を展開する。 イ 授業公開・研究授業・授業研究・授業アンケート等を活用し、積極的に授業改善を図る。 ウ 外部から専門家等を招き講義・講演や体験的授業を積極的に展開するとともに、授業研究を行う。 エ 学校図書館を活用し、生徒の読書習慣を確立する。 *36 期生における生徒向け学校教育自己診断(授業について) 満足度(平成 25 年度 1 年次 67%)を卒業時の平成 27 年度には 82%にする。また、図書館活用月間や読書週間を設定し、図書貸し出し冊数を平成 27 年度には 2 倍(平成 24 年度比)にする。
2 基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成
(1) 社会人として自立し、社会の一員として生きていけるよう基本的な生活習慣と規範意識を身につけさせる。 ア あらゆる教育活動において規範意識の醸成を図り、中学校との連携を強め、きめ細かい温かみのある生徒指導を徹底する。 イ 基本的な生活習慣が確立できるように、あいさつの励行、欠席・遅刻等の指導を徹底する。 ウ 社会の一員として生きていけるよう長期休暇や「総合的な学習の時間」・LHR等を活用し、キャリア教育や志学を効果的に展開する。 *遅刻数を平成 27 年度には 30%減(平成 24 年度比)にする。また、3 年生の希望進路実現率(平成 26 年度 85%)を平成 27 年度には 92%以上にする。
3 健全な心身・人間関係力の育成
(1)美しい学校環境、安全安心な学校づくりをとおして、生徒が健康で明朗に活動できる場を提供する。 ア 「ようこそ花と緑の西淀川高校へ」のイメージに合わせ校舎内外の環境美化をすすめ、健康教育に取り組む。 イ 部活動への参加を促し部活動の活性化を図るとともに、生徒会を中心とした学校行事の充実により学校教育全体の活性化を図る。 *36 期生における生徒向け学校教育自己診断(学習環境について) 肯定率(平成 25 年度 1 年次 41%)を卒業時の平成 27 年度には 72%にする。また、部活動参加率を(平成 26 年度 26%)を平成 27 年度には 30%にする。 (2)人間関係力を身につけさせ、コミュニケーション力育成のための取組を推進する。 ア 自らの気持ちをコントロールでき、自ら考え、判断し、行動する姿勢をはぐくみ、自尊感情を高め他者を理解しようとする心情を育てる。 *36 期生における生活実態調査において「何でも話せる人がある」(平成 25 年度 1 年次 87%)を卒業時の平成 27 年度には 92%にする。
4 生徒・保護者・中学・地域と相互の「絆」の強化
(1) 生徒・保護者と緊密な関係を築き、生徒への指導と支援を行う。また、保護者や卒業生、中学生や地域の方々の理解と支援を得るため、連携を深めるとともに広報活動の充実を図る。 ア 日常的に家庭との連絡を密にし、保護者との連携により生徒の指導や支援に取り組む。 イ 部活動や行事等での交流、出前授業や授業の相互見学などの実践により、中学校との相互連携を深める。 ウ 地域や中学生が参加できる行事を展開するとともに、地域での行事に積極的に参加し、地域との連携を強化する。 エ ホームページ等を活用して P R 活動を積極的に行う。 *保護者向け学校教育自己診断(学校について) 満足度(平成 26 年度 76%)を平成 27 年度には 85%にする。
5 学校経営の効率化
(1) 教育活動や業務の効率化・I C T 化を促進する。教職員の事務業務時間を減らし生徒と関わる時間を確保する。 (2) 複数の分掌や学年で作成・管理していた生徒情報について一元化を図り、教職員全員が情報を共有できる環境をつくる。 (3) 有機的に連携して業務の圧縮を図れるよう、教科、分掌、委員会の再構築をおこなう。 *教員アンケートにより「ICT 化の推進により、業務の効率化が図られた」が、平成 27 年度は前年度(平成 26 年度 60%)の 7%増にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 2 7 年 1 2 月実施分]	学校協議会からの意見
*実施方法 生徒には 1 2 月の期末考査初日に実施し、ほぼ全員から回収した(85.4%：長欠者以外は殆ど回収)。保護者には 1 2 月中旬に回答用紙を封筒に入れ、生徒を介して配付・回収した(一昨年：20%→昨年：35.4%→今年：32.5%)。 1.「学校へ行くのが楽しい」については 64%の生徒が楽しいと感じている。つまり 2/3 の生徒は満足していると考えられる。ただし、昨年より 10%下がっていることは、生徒自身に欠席遅刻が多いこととも関連してと思われる。 1 2.「進路について考える学習がある」について 入学当初からキャリア教育に力点を置いているが、1 年生は 48%、2 年生で 77%、3 年生では 87%と学年進行につれて肯定感が高くなる傾向を打開できる工夫が必要である。 1 3.「基礎学力を身につけるプリント学習は自分の学力向上に役に立つ」については 生徒と教員の意見の乖離がみられる。69%生徒が「役立つ」と思っているが、教員の肯定意見は 59%にとどまっている。これは教員の期待ほどは生徒の成績に反映していないと思われる。 2 0.「生徒指導」について 「厳しいと思う」については 70%が厳しいと感じている。ただし、教員はそれ程厳しい生徒指導をしているとは思っていない。当然な差ではあるが、理解を得る努力は必要である。	第 1 回学校協議会 6 月 2 6 日(金) *授業見学：「国語」「数学」「英語」で少人数での習熟度別授業と「体育」を主に見学 *学校経営計画について：パソコン検定などを受験する機会も設け、生徒たちの就職にも有利である。 *まとめ：授業アンケートはぜひ有効活用してもらいたい。 第 2 回学校協議会 1 0 月 2 8 日(水) *授業見学：「芸術」と「情報」を主に見学 *再編整備について 中学生の保護者としては子どもが行ける学校がなくなるのは怖いことだ。 *まとめ：志願者数を増加させるためにも、中学校訪問やオープンスクールなどしっかり実施してほしい。 第 3 回学校協議会 2 月 8 日(月) *授業見学：「化学」の実験とチーム・ティーチングの「現代社会」を主に見学 *学校ホームページをスマホ対応できるようにした結果、アクセス数が増加した。 *まとめ：西淀川高校のいろいろな授業形態を見学できた。在籍数をが維持しつつ、入試で一人でも多くの中学生に受験してもらいたい。

府立西淀川高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進	(1)わかる授業の展開、社会で生き抜くことのできる学力 ア 教材の工夫を図り、基礎的・基本的な学力の定着 イ 授業公開・研究授業・授業アンケート等を活用した授業改善 ウ 外部専門家等による講義・講演や体験的授業及び授業研究 エ 生徒の読書習慣を確立	ア・生徒の実態に応じたプリント教材を作成し、「TAG」「N-TAG」も活用しながら、学び直しを含む基礎学力の充実を図る。 ・ICT等機器を活用した授業づくりを深化させる。 イ・6月・11月の授業公開、7月・12月の授業アンケート及び学校教育自己診断を活用し、授業改善を推進する。 ウ・TT授業や体験型の授業の拡充を図る。 ・学校外から教育関係者を招聘し授業研究に取組む。また、人権、歴史、法律等の社会で必要な知識を学ぶための学校外講師による講演等を実施する。 エ・読書推進習慣を設定、読書活動を推進する。	ア・実施後の生徒アンケート「力がついた」80%(前年76%) ・生徒の学校教育自己診断で「ICT機器などの視聴覚機器を用いた授業に取り組むことが多い」60%。(前年50%) イ・教員の「授業改善に取組んでいる」と生徒の「教え方に工夫をしている先生が多い」という項目との差を7%以内にする(前年教員93%、生徒81%、差12%)。生徒の授業満足度87%(前年82%) ウ・生徒の学校教育自己診断(体験型学習について)肯定70%(前年64%) ・授業研究後の教職員アンケート「授業改善のために大いに参考になった」80%(前年80%)以上を維持する。 エ・調べ学習等図書室の活用した授業を展開する(延べ12教科・科目以上)。	ア・生徒アンケート「力がついた」69%。学校教育自己診断の実施時期を期末考査期間内にしたため回収率は向上したが、評価は昨年より低下した。考査時期のため試験の状況から自己肯定感が低い状態にあったと思われる。授業アンケートでは「興味・関心を持つことができた」の生徒の肯定意見は79% ・生徒の学校教育自己診断で「ICT機器などの視聴覚機器を用いた授業に取り組むことが多い」47%。教員のICT活用や演示などの体験型授業は目に見えて増えているが、そのことについて生徒には当たり前と捉えているようである。(△) イ・教員の「授業改善に取組んでいる」と生徒の「教え方に工夫をしている先生が多い」という項目との差は24%。生徒の授業満足度79%。教え方の工夫を自覚している教員は97%とほぼ全員、生徒の評価は73%とその乖離は大きいままである。授業アンケートの「授業を工夫して改善している」の生徒の肯定意見は85%であった。(△) ウ・学校教育自己診断(体験型学習について)肯定61%。 ・和歌山大学谷口准教授による授業研修で有意義であったが100%(○) エ・調べ学習等図書室を活用した授業は延べ17教科・科目(◎)
2 基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成	(1)基本的生活習慣の確立と規範意識の定着 ア 規範意識の醸成、中学校との連携強化し、きめ細かい温かみのある生徒指導の徹底 イ あいさつの励行、欠席・遅刻等の指導の徹底 ウ キャリア教育や志学の展開	ア・教育相談や生徒の発達といった広範な内容を含む生徒指導に係る職員研修を実施し、生徒とのかわりを深める糧とする。 イ・毎朝、教員が交替で校門での登校指導の取組を行う。また、定期的に『遅刻0週間』指導を行うとともに、欠席・遅刻の多い生徒については家庭連絡を徹底し、保護者の指導を要請する。 ・4・9・1月を「あいさつ月間」とする。 ウ・3年間を俯瞰したキャリア教育の取組を推進し、仕事の意識を高め就労意欲をもたせるための取組を積極的に取入れ生徒の進路希望実現をめざす。	ア・研修後のアンケート肯定率90%を維持する。(前年一回目96%、二回目92%)。 イ・3年生の欠席日数1年次比較5%減。 ・3年生の遅刻回数1年次比較5%減。 ウ・3年生の希望進路実現率90%。(前年85%) ・3年生の「特別講座」を10回以上開催し、生徒への事後アンケート「役立った」80%(前年80%)を維持する。	ア・一回目の発達障がいに係る研修(山下仰氏)肯定100%。二回目の危機管理に係る研修(峯本耕治氏)肯定100%(◎) イ・3年生の欠席日数1年次比較6%減。 ・3年生の遅刻回数1年次比較44%増。 生徒の実態から「遅れてでもまずは登校させる」を最優先の指導、更に3年生となり、進路決定した生徒に遅刻が多く見られた。(△) ウ・3年生の希望進路実現率100%。進学希望者、就職希望者とも内定100% ・3年生の「卒業講座」の名称を変更し「特別講座」として年10回開催(2/5最終回)。生徒への事後の感想文・アンケートでは、乳児や妊婦との交流が特に印象に残り、全員が役立ったと回答(◎)
3 健全な心身・人間関係力の育成	(1)美しい学校環境、安全安心な学校づくり ア 校舎内外の環境美化 イ 部活動活性化、学校行事の充実 (2)人間関係力、コミュニケーション力育成 ア 自己コントロール、主体性の育成	(1)ア・校舎内外の清掃美化を徹底するとともに、「花と緑」がいっぱいという環境の中で優しい心をはぐくむ。 ・生徒の清掃ボランティアを支援する。 イ・リーダーを養成し生徒にとって楽しい学校生活とするため学年を横断した取組(部活動や生徒会を中心としたフェスタ等)の学校行事を充実させる。 (2)ア・授業を中心としてあらゆる場面において自己を表現できるコミュニケーション力をつける取組(グループワークやプレゼンテーション)を行う。 ・いじめの未然防止のため、生徒の状況の細かい把握に努め、信頼関係を構築して生徒が教職員に相談しやすい環境を整える。	(1)ア・生徒向け学校教育自己診断(学習環境について)肯定率75%(前年71%) ・年間延べ参加者5%増(前年1335名) イ・アンケートによる部活動加入生徒の「充実している、満足している」77%。アンケートによる生徒会主催行事参加生徒「楽しかった、満足している」60%。 (2)・教職員向けアンケート「いじめは見逃さない」100%。生徒向けアンケート「校内でいじめなし」100%	(1)ア・生徒徒向け学校教育自己診断(学習環境について)肯定率63%。 来校される保護者や来客からは「きれい」な学習環境であると評価されているが、4年以上の取組で生徒にはこれか普通になってしまっている。 ・全日早朝清掃活動、週1～2回地域清掃を実施。年間延べ参加者722名、46%減。清掃活動の中心となるエコ部員が昨年に比べて減少したことによる延べ参加者減とつながっている。なお、清掃活動回数は昨年と同様であった。(△) イ・アンケートによる部活動加入生徒の「充実している、満足している」68%。生徒会主催行事参加生徒は全員が「楽しかった、満足している」と回答。(○) (2)・教職員向けアンケート「いじめは見逃さない」100%、生徒向けアンケート「校内でいじめなし」100%。(○)
4 生徒・保護者・中学・地域と相互の「絆」の強化	(1)生徒・保護者と緊密な関係構築。広報活動の充実 ア 家庭連絡、保護者との連携 イ 中学校との相互連携 ウ地域・中学生が参加できる行事展開、地域行事に参加 エ ホームページ、PR活動	ア・日常の面談・相談・電話等の連絡・家庭訪問・中学との連携等により生徒・保護者と緊密な関係を築く。 イ・周辺の小・中学校を中心に部活動や行事等での交流、出前授業や授業の相互見学などの実践により、校種をこえた相互連携をさらに深める。 ウ・さまざまな本校主催行事をさらに推進し、地域、中学生と連携を推進する。また、本校生徒がいろいろな地域行事に積極的に参加できるよう連携を強化する。 エ・積極的に広報活動に取り組み、地域・中学校から本校の教育活動についての理解をえる。	ア・すべての新入生の出身中学への訪問する。 イ・延べ交流・連携回数前年比20%増(前年度3校5日) ウ・行事への地域・中学生の来校者総数を維持。(前年300名)。地域等行事の生徒参加総数10%増(前年68名)。 エ・中学校訪問校を前年度の184校程度を維持する。学校や生徒の様子を出身中学校へ知ってもらうための里帰り訪問数を維持する。(前年35校) ホームページの更新回数150回を目標とする。(前年149回)。	ア・入学段階で出身中学である府内51中学を訪問し情報交換実施。(○) イ・5校8日(新北野中、西淀中、出来島保、出来島小・淀中)(◎) ウ・初の「西淀川高校スポーツフェスタ」を開催。野球・バスケットボール・卓球の3種目で延べ11中学276名の中学生選手が参加。このほか、環境フェスタ等の行事に本校への地域・中学生の来校者総数277名、活動の中心となるエコ部員の昨年度より減少により地域行事等への生徒参加49名。(◎) エ・再編整備案の発表に伴い、新規開拓よりも継続を中心とした訪問に変更。中学校訪問111校延べ214回。里帰り訪問42校、ホームページの更新回数168回。(◎)
5 学校経営の効率化	(2)複数の分掌や学年で作成・管理していた生徒情報について一元化、教職員全員が情報を共有できる環境づくり。	(2)・校内のICTシステムを活用し、情報の一元化を図り業務の効率化を図る。 ・日常業務における情報の効率的な共有化を図るため、ICT環境のみならず、職員室など各室の環境整備等を推進する。	(2)・教員アンケートで「ICT化の推進により、業務の効率化が図られた」を67%。(前年60%)	(2)・教員アンケートで「ICT化の推進により、業務の効率化が図られた」を70%。(◎)